

2024 年度 一般社団法人聖路加看護学会 定時評議員会議事録

日時：2024 年 6 月 14 日（金）18：00～19：00

場所：（聖路加国際大学）WEB 開催

出席：

評議員：片岡弥恵子（理事長）、吉田千文（理事・第 28 回学術大会会長）、平林優子（理事）、大久保暢子（理事）、柳橋礼子（理事）太田喜久子（監事）、江藤宏美、奥裕美、奥宮暁子、亀井智子（周年事業委員）、小山真理子、高橋恵子（選挙管理委員）田代順子、中村めぐみ、野崎真奈美（第 29 回学術大会会長）、野末聖香、林直子、平野かよ子、水戸優子、山本あい子、吉田俊子

委任状：11 通

指名理事：小林真朝（会計）、西垣佳織（庶務）、森田誠子（庶務）

代理出席：瀬戸山陽子（広報委員）

議事録作成者：片岡弥恵子理事長

議 題

1 理事長挨拶

片岡理事長から挨拶があった。

2 出席者数の確認：定款第 21 条 - 2

片岡理事長より、本日の出席評議員数及び委任状の提出について確認があった。評議員数は 33 名であり、17 名の出席と 11 の委任状があったため、過半数を満たし評議員会が成立することが確認された。

評議員会終了時の出席評議員数は 21 名、委任状が 11 名、合計 32 名であることが確認された。

3 議事録署名人の指名：定款第 24 条 - 2

奥裕美評議員および江藤宏美評議員が議事録署名人に指名され、承認された。

4 審議事項

1) 2023 年度事業報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料 1

(1)理事会報告（第 31 回学術大会会長報告）

(2)定時評議員会報告

(3)庶 務（看護系学会等社会保険連合）

(4)会 計

(5)学会誌編集委員会

(6)広報委員会

(7)学術交流委員会

(8)高度実践看護開発検討委員会

(9)選挙管理委員会

(10)周年事業

(11)第 28 回聖路加看護学会学術大会

(12)第 29 回学術大会進捗報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料 2

資料に基づき、各担当理事より 2023 年度事業報告がされた。学会誌編集委員会は、有森理事の代読を大久保理事が行った。広報委員会は、瀬戸山陽子委員が報告を行った。高橋選挙管理委員長、亀井周年事業委員長より、それぞれの事業の報告がされた。

第 28 回聖路加看護学会学術大会報告において、事務局構成員の記載が抜けていることが吉田千文学術大会会長より申告された。資料は修正を行うこととなった。

質問は無く、2023 年度事業報告は承認された。

2) 2023 年度決算および監査・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料 3-①②③④
資料に基づき、2023 年度決算が小林理事より報告された。次年度以降の年会費の支払いとして前受
金が計上されていることが説明された。
2023 年度監査の結果が太田監事より報告された。
質問は無く、2023 年度決算および監査報告は承認された。

3) 評議員・理事・監事役員の選任について（2023 年度選挙結果報告）・・・・資料 4
資料に基づき、高橋恵子選挙管理委員長より 2023 年度選挙結果が報告された。評議員は、各地区よ
り計 29 名が選出された。また、理事として飯岡由紀子氏、五十嵐ゆかり氏、梅田恵氏、片岡弥恵子
氏、高橋奈津子氏、林直子氏、柳橋礼子氏が選出され、監事として井部俊子氏、太田喜久子氏が選
出された。
理事および監事の選任は承認された。

4) 定款 17 条（3）「各種規程の制定、変更及び廃止に関する事項」の変更
規程の改廃（懲戒規程評議員・役員選挙規程）について・・・・・・・・資料 5
資料に基づき、西垣理事より、定款 17 条（3）を削除したうえ、懲戒規程および評議員・役員選挙
規程は改廃について理事会で審議することと両規程を改正する方針であることが説明された。
定款 17 条（3）を削除することが諮られた。質問、意見等は無く、承認された。

5 報告事項

1) 2024 年度事業計画および予算・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料 6-①②③
資料に基づき、片岡理事長より 2024 年度事業計画が、平林理事より 2024 年度予算が報告された。
2024 年度予算は収支差額がマイナスとなっているが、事業に必要な経費が計上された結果であり妥
当であること、前期までの繰越金があると平林理事より説明された。

2) 2024 年度名誉会員（佐藤エキ子氏）
片岡理事長より、2024 年度名誉会員に佐藤エキ子氏を推薦することが説明された。2024 年度会員総
会において佐藤エキ子氏を会員に紹介する予定である。

6 その他

1) 第 30 回学術大会会長挨拶
2025 年度 第 30 回学術大会日程：2025 年 9 月予定・・・・・・・・資料 7
片岡第 30 回学術大会会長より、テーマおよび日程、30 周年記念事業を学術集会の中で実施する予
定とされていることが説明された。

以上